

# 令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第二小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・具体物を使った操作活動を多く取り入れたことで、長さや広さなどの量の比較や図形に関する知識理解の力を伸ばすことができた。
- ・四則計算では筆算の繰り上がりや繰り下がりの補助数の書き方の指導を学校共通理解のもとに指導したことで、正確に計算する力を伸ばすことができた。
- ・第4学年は、学習効果測定において9割以上の児童が正しくコンパスを使って正三角形を描くことができた。操作活動の時間を十分にとって習熟を図った成果といえる。
- ・第5学年は、学習効果測定において記述・説明や考察をする問題の正答率が目標値を15ポイント程度上回ることができた。また、複合図形の求め方の式を選択する問題も同様である。思考の過程を大切に立式や考えの根拠をノートに書かせる指導を丁寧に行った成果が表れている。
- ・第6学年では、「比例・単位量あたりの大きさ」の問題で目標値を大きく上回ることができた。大切な事柄を落とさずに問題文を読むことの指導や、数直線を活用して問題解決を図る指導を継続して行った成果であると考えられる。

### (2) 課題

- ・低学年では「時刻を正しく読むこと」「○時間後の時刻を表すこと」等、「時刻と時間」の問題に難しさを感じている児童が見られる。
- ・場面に即して答えを概数で表すことや、概数の表す範囲を答える問題は正答率が低く課題が見られた。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△		
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△	(第4学年時) 知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度 △	
第6学年	知識・技能▽ 思考・判断・表現▽	(第5学年時) 知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度▽	(第4学年時) 知識・技能▽ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度▽

### (2) 分析（観点別）

#### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現
平均正答率は目標値を上回っている。小数のしくみや分数の計算などについての理解は平均で8ポイントほど上回っており、学習したことが身につけていると考えられる。繰り上がりが3回の計算は目標値を下回っており課題であるといえる。	平均正答率は目標値を上回っている。「□を使った式」に関する問題では、目標値を8ポイント上回っており、問題場面に沿って考えて立式をする力が定着していると考えられる。場面に即した答え方をする事、言葉を補う記述式問題では目標値を下回った。

## ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現
<p>第5学年は目標値を上回り、第6学年は目標値を下回った。</p> <p>第5学年は、分数の大小比較や面積を求める問題で目標値を8ポイント上回っている。概数の表す数の範囲を答える問題では目標値を下回り課題と考えられる単元である。</p> <p>第6学年では、比例関係を読み取って値を求める問題で10ポイント以上上回った。円周の長さを求める問題、ひし形の面積を求める問題では目標値を下回っており図形領域の知識理解が課題であるといえる。</p>	<p>第5学年は目標値を上回り、第6学年は目標値を下回った。第5学年では、グラフを比較して考察する問題や割合を比較して記述する問題で目標値を10ポイント以上上回っている。三角定規を組み合わせることができる角の大きさを求める問題では目標値を下回った。</p> <p>第6学年では、公倍数を使う場面を選ぶ問題で目標値を8ポイント上回った。体積の求め方を説明する問題では下回っている。</p>

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の中に具体的な操作活動を多く取り入れ、長さや広さ、角の大きさなどについての感覚を豊かにし、知識・技能を習得させる。</li> <li>・たし算やひき算は、筆算の補助線の共通した書き方を指導し、正確に計算ができるようにする。かけ算九九など、計算の基礎を確かなものにするために計算カードやドリルなどを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの長さや時間の単位など、身の回りのものと関連付けて指導し適切な表現ができるようにする。</li> <li>・数と計算の領域では、図の活用や具体物の操作を通して式の意味を考えさせる。演算決定につながる言葉を意識させて立式をさせる指導を行う。</li> </ul>

### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現
<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的教材を活用し、記数法や単位に関する理解を深める。児童の習熟度を把握し、計算力を高められるよう効果的な反復練習を行う。</li> <li>・図形や量の単位については、操作活動や身の回りのものと関連付けて考える活動を通して定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題場面を図や数直線で表したり活用したりして考えさせ、伝え合う活動を通して力を伸ばしていく。</li> <li>・共通のノートの手書きの指導を行い、思考の過程を大切に筋道を立てて問題解決ができるようにする。</li> </ul>

### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の習熟度を把握し、計算力を高められるよう効果的な反復練習を行う。</li> <li>・図形立体の領域では公式を正しく覚えて活用できるように問題練習の時間を確保し理解を確かなものにする。</li> <li>・図形では、用具を使って正しく作図をしたり測定したりできるように、十分な活動時間を設定し技能が定着するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形を構成する要素や性質に着目させて、筋道を立てて作図や面積を求められるようにする。</li> <li>・計算の仕方を言葉や式、図などを使って説明する時間を計画的に取り入れ、思考の過程を大切に根拠をもとに計算したり説明したりする力を伸ばしていく。</li> </ul>